

新宮山彦ぐるーぷ第1939回  
楊子ノ宿付近の倒伏石柱道標復元と

歩行危険箇所の確認・補修

◇実施日：2017年07月22日(土)～23日(日)

◇参加者：豊嶋 寛、樋口義也、川島 功、児嶋道夫、沖崎吉信、山口泰宏、青木宏充。 7名。

7月22日(土) 晴後曇り・夕方一時雨

倒伏石柱道標復元は、雨天延期や参加人数不足(道標を立て起す為には4人必要)等で、延び延びになっていた懸案事項である。又、奈良県から十津川村教育委員会へ「楊子ノ宿付近のトラバース道の歩行危険箇所の補修」要望があり、現地不案内の教育委員会から当ぐるーぷ事務局に状況等の問い合わせがあった。宿泊ノートにも危険を感じたとの書き込みがあった事もあり、この情報をぐるーぷ員に伝えていた。

青木氏が5月20日～21日に入山して、踏み跡が在り高捲き迂回路として補修しトラロープ及び「崩落」標識設置箇所から高捲き迂回路に取付く様に整備したとの報告があり、その確認と補修を兼ねて本行事を実施した。

18日に梅雨明け宣言されたが、紀伊半島沖に低気圧があり、紀伊半島南東部に湿った気流が流れ込み、時折ゲリラ的に雨が降る、やや不安定な日々が続いている。

千丈平・かくし水、鳥の水等の水場が、枯れて汲めない可能性も在り、各自が炊事飲料水1～2L及び食料を調達する事にした。又、石柱道標復元道具として、折畳みスコップ(児嶋)、ハンマー(1.4kg)、釘脱ぎ・園芸シャベル・水準器・ロープ(川島)を準備調達。

新宮5時に沖崎車で出発して、「十津川道の駅」で釈迦ヶ岳へ登るといふ潮岬のご夫妻と会う。旭エレキハウス駐車場で山口氏と合流し、太尾登山口に7時20分過ぎに着くと、約20分遅れ

るかもしれないと聞いていた青木氏は既に着き登山準備中。青空が広がり、標高1380mだけに、下界より8℃は低い事もあり冷んやりして涼しい。

濡れた路面の箇所もあり、水枯れは無いと持参飲料水を捨てる方もあったが、ザック奥等に梱包済みの児嶋・山口・川島は担いで登る事にして、各自15kg前後の装備荷を担ぐ。

尾根の樹林帯を登るにつれ汗が流れる、ブナ等の疎林尾根に出ると、バイケイソウや夜露に濡れたヒメササ・草により足元が濡れて来る。不動谷分岐で小休止すると、涼しく汗がひいて行く。



登山口で出発準備



不動谷分岐にて



千丈平・かくし水にて

此処から青木氏は、登山道へ覆い被さったヒメササを持参の電動バリカン(バッテリー約40分作動/個・4個持参)で刈って下さる。

露岩尾根に登ると前方に釈迦ヶ岳、右手に鋭角な山容の大日岳、朝日が当り反射するのは深仙ノ宿・灌頂堂屋根の様だ。

登るにつれ、下北山村側(東側)から雲がわいて曇天になってく、古田の森で小休止後、トウヒ・シラベの針葉樹帯に入ると、程なく千丈平・かくし水の水場で、豊富に流れていて、鳥の水・楊子の宿水場も流れていると確信する。

約15分急登し、釈迦ヶ岳南肩の奥駈道に合流する。北へと登

ると釈迦如来像が安置された一等三角点(1799.6m)の釈迦ヶ岳山頂である。直ぐに登って来た青年は、後で登ってくるご夫妻に聞いたと「新宮山彦ぐるーぷの方ですね」と云って来る、青年に本日行事参加者の写真を撮ってもらう。潮岬のご夫妻も登頂。



釈迦ヶ岳山頂にて(全員)

空鉢岳からの岩峰

椽の鼻・蔵王権現像

早朝出発のため、昼食の一部を腹ごしらえする。釈迦ヶ岳の下りは、登山道が濡れているので慎重に下り、岩稜の東側を捲き空鉢岳手前尾根上で小休止。青木・山口氏は、バリカン・鎌・鋸刃で、踏み外しや転倒すると事故になり易い箇所でもあり、覆い被さったササを刈りながら来ている。



釈迦ヶ岳を望む

孔雀観で小休止

仏生ヶ岳下りで倒木処理

孔雀観では、雲が湧き眼下が望めないが、西側は展望がある。青木・山口氏は、ササを刈って進むので、先行する様に伝言があり5名が先行する。トウヒ等の針葉樹林に覆われた孔雀岳の西側の捲き道に入ると、ゴロ岩の登山道の所では岩が濡れていて、滑らない様に注意して辿る。鳥の水場で冷たい湧き水で喉を潤し、沖崎氏は此処で水を補給する。

仏生ヶ岳(1805m)も頂上を通らず、西側を捲いて進み、頂上への分岐を過ぎ道が下りに入ると、81歳と高齢な豊嶋氏はバランス良く早く歩かれ、我々は遅れ気味になり必死に後へ付いて行く。先行した豊嶋氏は、登山道へ張出した古木の倒木を鋸で伐採。行者還で宿泊し、本日深仙宿、明日行仙宿に宿泊して本宮へ縦走する青年と出会い、昨日朝から雨だったとのこと。

平成26年9月に倒木伐採に入り、苦労した大径倒木を過ぎ、程なく楊子ノ宿小屋に14時過ぎに到着。

豊嶋・樋口氏は、楊子ノ宿水場へ。児嶋・沖崎・川島は、倒伏石柱道標復元へ、小屋常備のツルハシと持参した折畳みスコップ等の道具を川島のザックに詰め替え先行する。

楊子ノ宿を出ると、直ぐに「崩落」標識があり、新たな高捲き道へ約50m辿ると、尾根へ登る箇所に倒木が横たわり、鋸で切除する必要がある。尾根上は岩稜で3m程登り、左の草付き斜面を約60m下ると、歩行危険箇所を通り過ぎた世界遺産・奥駈道に再合流する。

楊枝ノ森への鞍部に倒伏石柱道標が在ったと思ったが無い、楊枝ノ森へと少し登ると倒伏石柱道標が在る。

道標横に設置の穴をツルハシで土と岩を割り、スコップで掻き出す。石柱道標は、穴上に移動する必要がある、ロープを結わいて3人で引っ張るが動かない。道標を少し浮かす間にツルハシ柄を差入れて引っ張る、児嶋さんの発案を実施すると、斜面の抵抗が少なくなり、動かす事が出来た、穴掘りの仕上は、釘抜きと園芸シャベルで土と岩を掻き出し、略水平な穴底に仕上げ、3人で

どうにか穴に落とし込み立てる。豊嶋・樋口氏も加勢に加わり、水  
準器で左右・前後を垂直に立て、穴と道標の四方の隙間に岩を入  
れ、ハンマーで叩いてしっかりと固定し、小石混ぎりの土等で盛り  
上げて約40分かけて復元した。



ログハウスの楊子ノ宿



倒伏石柱道標



穴掘り



石柱道標復元作業



復元した石柱道標



小屋に戻る際に、トラバース道の歩行危険箇所(約10m・15m  
の2箇所)を通るが、崩落箇所にはステップがあり、個人差がある  
が、この程度箇所は何処にでもありと感じた。雨後等でステッ  
プが無い時や雨降りでも斜めな岩盤を下る際は、危険に感じると  
思われ、その際は個人の判断で安全な高捲き道を辿れば良い。



歩行危険箇所(楊枝の森側10m)



楊子ノ宿側(約15m)



高捲き道への分岐標識

15時半頃に楊子ノ宿へ戻ると、奥駈道縦走路のササ刈り作業  
を終えて青木・山口氏も到着、ご苦労様でした。

川島は、高捲き道の倒木切除に行くが、切り口が締めり沖崎・  
青木氏の支援を得て倒木を除去する。

この頃から小雨が降り出し、ツルハシを持ってトラバース道の  
補修をして頂いた豊嶋氏も16時前に小屋に戻る。



高捲き道の倒木処理



楊子ノ宿での夕食



新宮市・紀宝町・香芝市・鳥の水・楊子の水で夕食の炊事。  
16時半過ぎから約1時間夕立がある。入口土間に水溜りが出

来、樋口氏がドア内土間の砂利を手箕で移し入れ解消して下さる。各自持参の食料を出し合い、児嶋氏からししやも・オムレット、豊嶋氏から鱻・鰯丸干し及びオクラ・ピーマン、川島からミニトマト・自家製胡瓜の漬物等が差入れされ、食料に比べ重いビール等の酒飲料が少なく早朝発ちと疲れもあり、2階へ沖崎・児嶋氏が移動し20時に就寝。シュラフカバーで覆られる暖かさであった。

### 行動タイム

新宮5:00→6:40 旭口→7:20 太尾登山口7:35→8:10 不動谷登山口分岐8:25→9:00 古田の森→9:50 千丈平・隠し水 10:00→10:20 釈迦ヶ岳 10:40→11:30 両部分け→12:20 孔雀覗↓鳥の水→14:05 楊子ノ宿 14:10→14:30 倒伏石柱道標 15:10→15:25 楊子宿↓捲き道 倒木処理 15:40→15:50 作業終了→16:30 夕食→20:00 就寝。

### 7月23日(日) 晴時々曇

5時前に起床、東側の空が茜色に染まっている。各自持参の食料で朝食を済ませ、6時25分に楊枝ノ宿を出立。

昨夜の夕立後、風が吹かなかつたことから登山道、木々の葉にも濡れ残っているの、ロングスパッツ着用者が先頭を歩く。

仏生ヶ岳の急坂の尾根を登り終えた地点で小休止。今日は遠望が望める。



楊子ノ宿・出発



宿から急登を終え小休止



釈迦ヶ岳を望む

青木・山口氏は、刈り残しのササを刈りながら歩くことから、樋口・児嶋・川島が先行する。豊嶋氏は撮影ポイントを見ながら歩いている。

仏生ヶ岳山頂分岐辺りにオオヤマレンゲが咲いていたとの青木氏から聞いていたが、見つける事が出来なかった。

鳥の水手前の展望の良い場所です全員が揃い、振り返った仏生ヶ岳、朝日が当たりだした七面山岩場、仏生ヶ岳と七面山の間金剛山山並みが遠望出来た。孔雀覗では、五百羅漢の奇岩の林立、前鬼川流域の支尾根の連なり、遠くは那智・烏帽子山の山並みが眺望出来た。



仏生ヶ岳山頂分岐



仏生ヶ岳を振り返る・鳥の水手前の展望場所



孔雀覗からの五百羅漢



孔雀覗手前の笹刈り



笹刈り後の登山道

